

## サーチライト With Pastor Jon 黙示録 12章 パート2

このメッセージはアップルゲート クリスチャン フェローシップの、ジョン・コーソン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録するのを感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りょくさんの為にも、お祈りください。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」ヘブル4:7

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rin

と言うことで、彼らはペトラに導かれ、1260 日の間かくまわれます。

さて、天に戦いが起こって (黙示録 12:7)

繰り返しますが、患難時代のただ中に、地上では反キリストが本性を現し、天国では戦いが起こります。

ミカエルと彼の使いたちは、竜と戦った。それで、竜とその使いたちは応戦したが勝つことができず、天にはもはや彼らのいる場所がなくなった。(黙示録 12:7-8)

「ちょっと待って。サタンは既に天から追放されていると思っていたけど…」

その通り。

彼は天から追放されました。

世界が創造される前に。

しかし、依然として天に出入りできたのです。

それは、ヨブ記 1 章から分かります。

皆さん、ヨブ記 1 章を知っていますね。

主はサタンに仰せられた。「おまえはどこから来たのか。」サタンは主に答えて言った。

「地を歩き巡り、そこを歩き回って来ました。」(ヨブ記 1:7)

主はサタンに仰せられた。「おまえはわたしのしもべヨブに心を留めたか。」(ヨブ記 1:8)

ヨブは思った事でしょう。「アリガトウゴザイマス。」

サタンは、天国に永遠に住むことはできません。

でも、サタン、翼を持つ竜は、天国に出入りができるのです。

そこで皆さんは思うでしょう。

「天に出入りして、何が目的なのか？」

次を見ると、古い蛇は投げ落とされた。(黙示録 12:9)

ここで、サタンは完全に投げ落とされて、もう出入りできなくなります。

二度と神の御座の前に立てなくなるのです。

こうして、この巨大な竜、すなわち、悪魔とか、サタンとか呼ばれて、全世界を惑わす、あの古い蛇は投げ落とされた。彼は地上に投げ落とされ、彼の使いどもも彼とともに投げ落とされた。

(黙示録 12:9)

患難の真っ只中、サタンは、これまでずっと出入りできていた場所から、永遠に追放されます。

そのとき私は、天で大きな声が、こう言うのを聞いた。

「今や、私たちの神の救いと力と国と、また、神のキリストの権威が現れた。私たちの兄弟たちの告発者、日夜彼らを私たちの神の御前で訴えている者が投げ落とされたからである。

兄弟たちは、小羊の血と、自分たちのあかしのことばのゆえに彼に打ち勝った。彼らは死に至るまでもいのちを惜しまなかった。それゆえ、天とその中に住む者たち、喜びなさい。

しかし、地と海とには、わざわざ来る。悪魔が自分の時の短いことを知り、激しく怒って、そこに下ったからである。」(黙示録 12:10-12)

この箇所を学んでいくと、これが起こっているのは天国であり、それ故に、兄弟たちの告発者は誰を告発しているのかということが、時系列的に理解できます。

告発されているのは教会、つまり皆さんや私です。

どこで？

天国で！

どういうことでしょう。

『キリストの裁きの座』

私たちは、そこで報酬を受けるのです。

「キリストの裁きの座」は、罪に関するものではありません。

あなたの罪は、既に赦されています！

つまり、これは褒美を与えられる場ですが、私たちに報酬が与えられる度に、“兄弟たちを告発する者”が言うのです。

「何だって!? あいつが? あり得ない!」「奴らにそんな価値はない!」

「彼らにその資格はない!」「彼女は祝福じゃなく、罰を受けるべきだ!」

しかし彼らは、罪を洗い清めるイエス・キリストの血と、“自分たちのあかし”のことばのゆえに彼に打ち勝ったのです。

私たちのあかしとは、【神の恵み】

受ける資格のない、ただ無条件の好意。

自分の命を愛さず、自分の働きや価値を心配して自分自身で分析したりせず、ただシンプルに、主がなされたことだけをほめたたえるのです。

自分を愛するのではなく、自身に死ぬ。

自分のことは忘れなさい。

天で起こることは、地上で毎日起こっていること。

サタンは常にあなたの耳元でささやくのです。

「お前に祝福を受ける価値はない。」「お前なんか用いられない。」

「お前の祈りなんか聞かれない。」「お前にはそんな祝福や奇跡は起こらない。」

しかし、あなたはサタンに打ち勝ちました。

ここで、彼らがしているのと同じ形で。

私たちが天で行うのと同じ形で…。

イエスの血と恵み。

自分の状態なんて、どうでもいいのです。

自分のために生きた人生を分析する必要もありません。

サタンは追放されました。

同じように、あなたも日々の葛藤の中で告発してくるサタンを放り出すことができます。

皆さんはもう十分に知っていると思いますが、サタンから来る「非難」と、聖霊から来る「説得」の違いを、どうか理解して下さい。

「非難」とは、「そうさ、あんたの言う通りだ。俺の祈りなんか聞かれない。」

「教会に行ったところでどうなるんだ。」「私が祝福されるはずがない。」

「僕が神に用いられるワケがない。」など、あんなこと、こんなこと…

もっとあれをすれば良かった、しなければ良かった…

そんな風にウジウジする。

それは、サタンからのもの。

サタンの「非難」は、いつもあなたを神から遠ざけます。

でも、聖霊の「説得」は、いつも神の方へ引き寄せます。

「ジョン、それについてはもう贖われている。もう赦している。

忘れなさい。わたしは、もう忘れてしまったのだから。さあ、前へ進もう。

わたしはあなたを用いたい。祝福したい。あなたの家族に働きたい。

わたしはあなたのミニストリーを通して大きなことをしよう。」

「ジョン、あなたはもう赦されている。今、わたしはあなたを説得している。

わたしはこの事を通して、今あなたの気を引いているのだ。

あなたが自分自身を痛めつけるのを、もう見たくないから。

あなたが自分を痛めつけ、周りの人をも傷つけるのを見たくない。

わたしはあなたと共にいて、あなたをその罪から赦している。

あなたがそれを乗り越えて前進するのを見るために、わたしはあなたと共にいるのだ。」

これが聖霊です。

「説得」は主へ導き、サタンからの「非難」は主から遠ざける。

それによって両者を見分けるのです。

さて、話を元に戻しましょう。

サタンは追放されました。

「やったー!! われらの勝利だ!」「私たちは天国に行くんだ!」

「天国でこの出来事を見るんだ!」

ミカエルと御使いたちがサタンを追い出し、ずっと出入り不可能にしました。

しかし、サタンは地上に下りて来て、12節によると

“悪魔が自分の時の短いことを知り、激しく怒って” います。

そこで、

自分が地上に投げ落とされたのを知った竜は、男の子を産んだ女を追いかけた。(黙示録 12:13)

時は患難の真っ只中、サタンは激しい怒りとフラストレーションの中で、最後の望みに懸けました。

「どんなことをしてでも、この計画、この預言の成就を阻止しなければならない。

そのためにユダヤ人を完全に消してやる。」

こうしてサタンは、ユダヤ人に対する憎しみと苛立ちを燃え上がらせ、この女を追いかけました。

しかし、女は大鷲の翼を二つ与えられた。自分の場所である荒野に飛んで行って、そこで一時と二時と半時の間、蛇の前をのがれて養われるためであった。(黙示録 12:14)

この二つの翼とは何でしょう。

大鷲といえば、勿論アメリカのシンボル。

そこで一つの説は、これはアメリカの軍事力のことで、アメリカ軍がイスラエルの人々を援護するというもの。

1948年のイスラエル再建以来、アメリカだけが唯一、イスラエルの味方についてきましたから。

だから、アメリカ空軍がイスラエルを安全な場所へ移動させるのかもしれませんが。

わかりません。違うと思いますけど。それも有り得る。興味深いところです。

とにかく主は、何かを使ってユダヤ人を救い出し、ご自分が用意された場所、岩の町ペトラへと連れて行きます。

ところが、蛇はその口から水を川のように女のうしろへ吐き出し、彼女を大水で押し流そうとした。

(黙示録 12:15)

竜、サタンは反キリストを通して、ユダヤ人に対する敵意を吐き出し、怒りをまき散らして、逃げている彼らを洪水のように追いかけ、押し流し、潰そうとします。

ちなみに、反キリストが敵意を燃やして追いかける中、何人のユダヤ人が逃げ延びると思いますか。

ゼカリヤ書 13章を見てみましょう。興味深いことが書いてあります。

全地はこうなる。—主の御告げ—

その三分の二は絶たれ、死に絶え、三分の一がそこに残る。(ゼカリヤ書 13:8)

聖書で「地」は、いつもイスラエルを指します。

わたしは、その三分の一を火の中に入れ、銀を練るように彼らを練り、金をためすように彼らをためす。彼らはわたしの名を呼び、わたしは彼らに答える。わたしは「これはわたしの民」と言い、彼らは「主は私の神」と言う。(ゼカリヤ書 13:9)

ゼカリヤ書のこの部分は、患難についてのことです。

ユダヤ人の 1/3 が生き延び、3人に2人は死ぬ。

これは、大変なホロコースト（ユダヤ人大虐殺）です。

こうして最終的に結果として、ユダヤ人の 1/3 だけが生き残って、その目が開かれ、主を理解し、知って、救われ、千年間の平和、千年王国へ入るのです。

わたしは「これはわたしの民」と言い、彼らは「主は私の神」と言う。(ゼカリヤ 13:9)

竜は、これらの人々全員を滅ぼそうと追いかけます。

が、次の 16 節を見て下さい。

しかし、地は女を助け、その口を開いて、竜が口から吐き出した川を飲み干した。

(黙示録 12:16)

「ちょっと待てよ。これが本当に起こるなんて本気で思っているのか？」

民数記 16 章で、ダタン、コラ、アビラムが、モーセに背いて色々な陰謀を企てましたが、その時、地が開いて彼らは飲み込まれました。

ここを読んで、「今の時代、ステルス技術や国防総省、コンピューターに精密機械など全て揃っているじゃないか。」と言うでしょう。

でも最近の出来事を調べてみて下さい。

中東で起こっていることは、全くもって、全てが別世界のことのようですが、この箇所では、地がこれらの軍隊を飲み込むとあります。

これは砂嵐によって起こることもあり得るし、様々な現象が重なり合って起こるのかもしれませんが。

それが何であれ、反キリストの企みは、ここで立ち往生してしまいます。

すると、竜は女に対して激しく怒り、女の子孫の残りの者、すなわち、神の戒めを守り、イエスのあかしを保っている者たちと戦おうとして出て行った。(黙示録 12:17)

全てのユダヤ人を絶滅させようとする竜の企みは失敗に終わり、ユダヤ人たちは、神が用意していたこの荒野の場所へと導かれて行きます。

大鷲の二つの翼が何であるのかは、はっきりとは分かりません。

でも出エジプト記で、主は同じように表現しています。

出エジプト記 19 章で、主はご自分の民に言われました。

「誰がパロからあなたたちを救い出し、紅海を奇跡的に分けたのか。

竜がするのと同じように、エジプト人があなたたちを襲って来たが、紅海が彼らの上に襲いかかり、彼らは溺れ死んだ。わたしがそれをしたということを、あなたたちは見たのだ。」

これは黙示録 12 章で起こることを、私たちに見せているのです。

あなたがたは、わたしがエジプトにしたこと、また、あなたがたを鷲の翼に載せ、わたしのもとに連れて来たことを見た。(出エジプト記 19:4)

興味深い相似です。

「わたしがあなたたちを鷲の翼に載せて、エジプト人から奇跡的に救い出した。」というところから、次の聖句を思い出します。

黙示録 12 章、出エジプト記 19 章、申命記 32 章の鷲の翼。

よく聞いて下さい。

どうか、これらの御言葉を書き留めて、今週中にディボーションで読んで下さい。

とても大切な御言葉です。

鷲の翼、イスラエル、主の民の救出。

主の割り当て分はご自分の民であるから、ヤコブは主の相続地である。(申命記 32:9)

主は荒野で、獣のほえる荒地で彼を見つけ、これをいだき、世話をし、ご自分のひとみのように、これを守られた。(申命記 32:10)

瞳は、体の中で一番早く反応するところです。

あなたの目に何かが迫ると、瞬時に瞼が閉じて瞳が守られます。

主は、「わたしの民は、わたしの目の瞳だ」と言われるのです。

「わたしは彼らと共にいて彼らを守る。」

「誰もわたしの目の瞳を傷つけることはできない。」

さあ、次を見て下さい。

鷲が巢のひなを呼びさまし、そのひなの上を舞いかけり、翼を広げてこれを取り、羽に載せて行くように。(申命記 32:11)

ただ主だけでこれを導き (申命記 32:12)

鷲が巢のひなを呼びさまし、翼を広げて、ひなを羽に載せて行くように、主はイスラエル、ご自分の民に同じようにされるのです。

主は、ユダヤ人国家が絶体絶命になった時、同じように、鷲の翼に載せ、彼らを守り助けます。

神は、それを今、あなたにもしているのです。

もしあなたが、「どうしてこんなことが起きるのですか!?! 何をするつもりなのですか!?!」と、もがいているなら、ひどく嘆いているなら、聞いて下さい。

主からあなたへのメッセージです。

「わたしはあなたを愛している。」「あなたを荒野で見つけたよ。」

「あなたはわたしの瞳だ。」「わたしはあなたの最善を望んでいる。」

「あなたは潰されない。いつでもわたしが受け止めるから。」

「いつもあなたに働きかけているよ。あなたが飛べるように。高く高く飛べるように。」

それで、私も学んでいるのです。

できるだけ、泣き言を言わないように。腹を立てないように。恨まないように。

不平不満を言わないように。

今、学んでいるのです。

そして父なる神は、その民に計画がある、と言われたことを忘れません。

「ジョン、わたしはあなたを鷲の翼に乗せる。」

だから、飛び方を教えよう。

そのためには、絶対に巢がひっくり返る必要がある。

あなたを突き刺しているものは、巢をひっくり返すために、予め準備されていたことだ。

でも、飛び方を学んで、できるようになったら、あなたは何よりも、そのもたらされていたものを喜ぶだろう。

わたしを信頼しなさい。

あなたはわたしの目の瞳。

泣き言を言うのを止めて、わたしを信じなさい。

そうすれば、あなたは飛べる。

高く高く飛べるから。」

今夜、自分自身の大患難の中にいる人たちに、聖霊が理解を与えて下さるように。

神は、あなたのために場所を用意し、鷲の翼に乗せると言われます。

不平不満を言わないこと。

主があなたを岩の中に、岩であるイエス・キリスト、究極のペトラ、あなたを養うために神が用意されている場所に、かくまわれることを理解しましょう。

祈りましょう。

父よ。あなたの御言葉から、私たちは多くのことを理解しました。

あなたの民、エホバの妻であるイスラエルに立てたあなたの計画について、また今、私たちの人生の中に、主がどのように働かれるかも学びました。

あなたは私たちを竜の洪水から守られます。

そして、あなたご自身の翼の上に私たちを載せて、私たちのために用意して下さった岩へ運んで下さるので、その場所で安らぎを得ることができます。

主よ。私たちがそのことを理解して、今日ここを離れますように。

私たちのために全てを捧げて下さった方、私たちの代わりにカルバリーの十字架で打ち砕かれた方を信頼することを、今夜選び取ります。

あなたをほめたたえることを、選び取ります。

また、エルサレムの平和のために祈ります。

父よ。あなたの妻である人々にあなたが用意されている働きを、彼らが見ますように。

その目が開かれ、悟りますように。

そして彼らが千年王国に入りますように。

主よ。理解を与えて下さってありがとうございます。

この瞬間も、私たちが光の中を歩めるように助けて下さい。

イエスの御名によって。

アーメン。

そのとき、いちじくの木は花を咲かせず、ぶどうの木は実をみのらせず、オリーブの木も実りがなく、畑は食物を出さない。

羊は囲いから絶え、牛は牛舎にいなくなる。

しかし、私は主にあって喜び勇み、私の救いの神にあって喜ぼう。

私の主、神は、私の力。

私の足を雌鹿のようにし、私に高い所を歩ませる。(ハバクク書 3:17 - 19)